

わたぼうし新聞 第13号

発行者 わたぼうし連絡会
発行日 1988年(昭和63年)11月15日

第13号の特集 「介護とは IV」

—絶望のとなりに—

絶望のとなりに たれかが

そっと腰かけた 絶望は

となりのひとに聞いた

「あなたはいったい 誰ですか」

となりのひとは ほほえんだ

「私の名前は 希望です」

この新聞は障害のある人、ないひとが自由にそれぞれの考えを出し合い、主義、主張を越えて、お互いを理解し合う中から共に生きる豊かな社会を作っていくことを目的に発行しています。

特集 《介護とはIV》

このコーナーはいろいろなテーマについて、さまざまな人たちに意見を述べてもらうコーナーです。

病院ケース・ワーカーの立場より 1 病院ケース・ワーカー

介護の必要な人たちの中でも、寝たきり老人や痴呆老人、さらに重度の障害者など介護度の高い人たちの介護負担は、介護を必要とする人たちの平均余命の延長や障害の重度化傾向の中で一般の世帯が想像する以上に厳しい状況にある。

このような中で、介護負担の問題として考えることは着脱衣・排泄・入浴・食事・移動など、日常生活上の基本的な動作に介助が必要になるがゆえに、まず介護の日常性が第一に上げられる。第二は介護の拘束性である。日常的介助の必要なことは要介護者から長時間介護の目を離せない結果、著しい拘束性を伴う。第三は介護の継続性である。障害の固定した要介護者の介護は一生死に至るまで継続されるのである。第四は要介護者の生活範囲の広がりによって起こる加重性の問題である。

このように在宅における介護者の介護負担は非常に大きく、例えば日常不断に身辺介護が続けられたとしても、介護者の高齢化や家族機能の衰退など、その介護体制が不十分であり、十分な介護能力のある主介護者が日常的に複数存在し、介護に専念でき、必要な時に必要なだけの介護の補助・代替者が得られ、将来的に介護の継承者の見通しが持てるような家族の介護機能や公的・社会的介護体制の整備が求められていると言えるのではないだろうか。

病院ケース・ワーカーの立場より 2 病院ケース・ワーカー

現在のところ私は介護する側にいますが、もし自分が介護される側となった場合のことを考えると、介護されることを極あたりまえのこととして受けとめながら生きていけるよう援助をしてほしいと思います。もちろん介護されることに慣れてしまい、何もかも人まかせでやる気がないのは困ります。

しかし、私は病院で働き始めて障害者となった患者さんから、家族に迷惑がかかるから家に帰りたくない。看護婦さんに申し訳ないからナースコールが押せないという話を聞くことが多く、介護される側にそういう気持ちを持たせることが本当に介護と言えるのだろうかと思うのです。障害者となり身のまわりのことを自分でできなくなること、人の援助がなくては生きていけないということは人によっては非常に屈辱的な思いを伴うものであると思います。そういう人たちに対して障害を受け入れ、さらに生きていく意欲が出るように日常的な介護の中で援助していく必要があると思います。

では、介護する側としてどのような態度で介護にあたるのが望ましいのでしょうか。学生の頃に実習させてもらったある施設では、職員は皆「お世話させてもらっている」とい

う気持ちを持ちながら業務を行っているという話でした。そこまでいくと私には無理があるような気がします。そんなに構える必要はないのです。介護される側の気持ちを思いやらず傷つけるような言動はもちろんのこと、同情心や偽善的な考えを持つのも同じくらい問題だと思います。介護される人が自然に受け入れられるようにもっと気軽に援助していきたいと思っています。この「自然に」ということが一番難しいのですが。

ふれあい 在宅障害者

ある老人ホームへ月に一度手芸クラブという時間があり、エプロンや袋物などを老人たちといっしょに作ります。といっても大半は作ってあげなければいけない状態です。

始めのうちは、お年寄りにとって何のために、何の時間なのだろうと、疑問を持ったりしました。

ある時から語弊があるかも知れませんが、おばあちゃんやおじいちゃんと遊んでくればよいのではないかと思うようになったのです。私が具合が悪くて行けなくなった時、何故来なかったかと聞かれたと言うのです。

私の3倍以上も、もっと長生きをしてこられた人たち、私のおよびもつかないような経験をしてこられた人たちです。月に一度、それもたったの2時間くらいで何がわかるのでしょうか。それでも、私を待っていてくれるのは寂しさから、それと私が外の人間だからかも知れません。

月に一度「おばあちゃん、おじいちゃん元気だった？」と言って、また顔を見に行きます。私にはどんなに頑張ったってそれ以上のことはできないのですから。

介護について 障害者支援施設・利用者

私は日常生活において困難をきたし、他人の介護を必要としても、地域で催される行事に参加して、隣近所の人たちとふれあい地域の中で生活することが、よい方法だと考えています。

しかし、現状をみれば、介護に携わっている人たちが限定され、身体に重度の障害をもち、24時間介護体制を求めても実施するのがなかなか難しい。

ルソーの語録の中に“生きることは呼吸することではない、行為すること”とあるように、今は与えられた時間内の中で生かされるのではなく、自分で自分のスケジュールを作成し、街をUFO（遊歩）したり、トレイン旅行に出かけて、一般乗客に大きな声で呼びかけ、階段の昇降を手伝ってもらい、健常者主流社会の設備に対して不自由な点を追求し、改善を要求したり、金沢の自立センターを作ろう会を支援する資金づくりであるバザー・チャリティー・上映会に協力しています。誰もが何気なく声をかけあい、車椅子を押したり、トイレ介助を気軽にできるようになれば、もっと自然に街の至る所で、車椅子に乗った障害者の姿を見かけるようになるだろう。

障害者と交流を希望される方は連絡下さい。

生活維持と介護・介助について 参考文献・『NHKラジオ社会福祉セミナー』

10月9日(日)放送

ここでNHKラジオ第2放送より「介護・介助」のまとめとして掲載します。

☆なぜ介護・介助が重視されているか

介護・介助という言葉は、最近でこそよく使われるようになったが、しばらく前まではそれほど市民権のある言葉ではなかった。

介護・介助が重視されているのは、その一つとして、社会福祉サービスが大きく専門分化してきていることにあると思われる。老人ホームの場合は特別養護・養護・経費老人ホーム等、身体障害者・精神障害者の場合は次第に重度者が増えてくるにつれ、重度身体障害児（者）施設、重度身体障害者療護施設、寝たきりや痴呆性老人が増えてきている。

このような時代背景の中で、身辺自立が困難な障害者や老人が増えてきており、最近になり援助の必要性が認められるようになってきている。そのことから介護・介助という言葉が使われるようになってきたのである。

☆介護・介助のもつ意味

介護・介助の行われている場として、重度身体障害者療護施設、更生施設、在宅の場合が多い。最近の場合は養護学校でも増えてきている。例として食事をあげてみる。

調理方法も固めのご飯、おかゆ、おにぎり、流動食にするといったその人にあった調理方法が必要となってくる。食堂までこられる人の場合は集団で楽しむ食事をする。食堂ま

でこれない人のために枕元まで配膳をする必要がある。

箸やスプーンを持ってない人のためにはご飯はおにぎりにし、おかずは刻むという工夫が必要となってくる。それでも手が動かないという場合口までもっていく必要がある。そういった一連の援助を介護・介助という。同じことは入浴の場合でもいえる。

これらの中で最も大切なことは相手に話しかけをしたりして、お互いに立場を理解することが大切である。相手との信頼関係が必要である。介護・介助は人間活動の最も基本であり、援助活動の上で最も重要な活動である。介護・介助の内容は日常生活のすべてがその内容となる。

☆介護・介助の内容

例えば、トイレの場合はトイレに行くまでの歩行の手助け、トイレに行ってもズボンの上げ下ろしを手助する。トイレに行けない場合は尿器、おしめで対応する。その人の障害によって介護・介助の方法が違ってくる。

外出時は暑さ寒さということを考えて、着こなしも重要な援助となってくる。精神障害者や痴呆性老人の場合は暑さ寒さを判断することが難しいので、その場に応じた着こなしも重要な意味をもってくる。その他・移動・起床・寝起きが重要な問題となってくる。

☆介護・介助の特徴

介護・介助というのは、日常的で継続的であることが必要である。例えば食事の場合は1年365日必要である。また24時間の援助活動が必要となってくる。トイレのように必要なときにいつでも援助することが原則である。

その他介護・介助というのは、一人暮らしの老人のように生命の危機に対応する必要がある。そうした援助を通して本人の自立を促すという重要な課題をもっている。

☆共同作業の重要性

自分の身のまわりのことをできるようにするためには、できることは自分で行ってもらうようにすることが大切である。

また、介護・介助をしてもらうというのでは、介護・介助の本当の意味をなさない。介護・介助とは要援護者（援助を必要とする人）も共にどうあるべきかを考え、努力をして作り上げていく共同作業である、ということを認識しなければ一方的な作業となるであろう。

☆介護・介助の過程

身体的・精神的に障害があるために、自分の体を自分の意志で動かすことのできない人の介護・介助をする人（ケアワーカー）が手や足に代わって直接的に働きかける必要がある。直接的に働きかけるだけでなく、相手の臨んでいることを確かめるためにも「声かけ・言葉かけ」が必要となってくる。

介護・介助というのは、体に対する援助だけでなく、心に対する援助も必要になってくる。

☆介護・介助の進め方の原則

①どこまでできるのかという能力を知る。②どのような介護・介助を行うか。③その介護を必要とする人のペースを知る。④動作順序を理解させる。⑤動作方法の繰り返し。⑥段階を組んで進める。⑦決めたことは毎日繰り返す。⑧効果が上がらないときは別の方法で行ってみる。⑨相手がどのようなことを受け入れ、拒否しているかのを判断する。⑩自分でやろうとする気持ちを育てる。それをしなければ最終的に要援護者の自立になって行かない。介護・介助とは精神的で肉体的な援助といえる。

最後に介護・介助とは共同作業の重要性に延べたように、要援護者に対して単に援助をするのではなく、要援護者の自立を目指すことができる援助が真の介護・介助といえるのではなかろうか。

☆編集局より

4回にわたり特集してきました「介護・介助」については今回で終わらせていただきます。たくさんの方々のご意見・アンケートにご協力いただきましてありがとうございます。まだ、数点「介護について」の投稿がありますが、紙面の関係上次号に掲載させていただきます。

次号よりテーマは、ガラリと趣を変えて「生きる」となります。

ものしり博士・登場！！

～ノーマリゼーションとは～

イヤ、諸君こんにちは。今回よりワシが登場し、諸君が知っている役立つ言葉を優しく説明することになった。第一回目として最近よく使われるようになった「ノーマリゼーション」について簡単に説明をする。

エヘン、1955年にデンマークの知恵遅れの親の運動のなかから、提唱されてきた考えを表現したものである。その後、欧米諸国でも使われ、日本では1970年ごろから注目されてきた。

言葉の意味は高齢者も若者も、障害者もそうでないものも、すべて人間としてノーマル（普通）の生活を送るため、共に暮らし、共に生き抜くような社会こそノーマルであるという考え方である、という考え方である。つまり、高齢者や障害者の施設を作り、しかも、遠くへ隔離・分断するような社会はアブノーマル（普通ではない）だという考え方である。

じゃ、これで今回はワシの講義は終わる。諸君の質問を待っている。また、登場するまでバイバイ。

（参考文献・現代用語の基礎知識より）

各地からの催しものだより

石川県脊髄損傷協会温泉療養 石川県脊髄損傷協会

去る7月30日～8月1日の2泊3日にわたり、脊髄損傷協会石川県支部恒例の温泉療養を和倉温泉「六翠苑」で行いました。参加人数は富山県支部からの参加及び、子供2名を含めて50名で最高の療養を行いました。

初日はカラオケ大会などを行い、皆様の声にうっとりしました。2日目は昨年行われた沖縄全国身体障害者スポーツ大会の映画を見ました。この画像を見て自分たちも負けられじと、昭和66年に行われる石川大会に合わせて、体調の訓練をしなければとの話し合いのひとつもありました。午後「六翠苑」主催のゲートボール大会に参加し、賞品を手にして皆んな大喜びでした。

自由時間は能登島大橋を渡る方もあり、楽しい温泉療養だったと思います。参加者全員が堪能し2泊3日の温泉療養は無事終了しました。

障害者雇用促進キャンペーン 在宅障害者

去る9月3日、金沢市香林坊大和前で雇用促進街頭キャンペーンが行われ、行政、県障害者雇用促進協会関係者やミス百万石の方に交じって障害者を代表して未熟ながら僕も参加させていただき、パンフレットや花の種を通行人に配り、障害者の雇用促進をPRしてきました。

このキャンペーンは、9月の障害者雇用促進月間にちなんで行われたもので、僕も県肢体不自由児協会関係者からの参加協力を頼まれ、こんな僕でも役に立つのならと思って引き受けました。

でも、参加をしてパンフレットや花の種が入っている封筒を関係者が大々的に配っているため、渡そうと思う人がみんなすでもらっている人ばかりだということと、放送関係者のテレビカメラがあるために通行人が逃げてしまい、受け取ってくれる人が見つからなくて一時は沈みがちで、配り終えるだけで疲れてしまいました。

とにかく、このキャンペーンが単なるデモンストレーションに終わらないように、健全者も障害者も意識して障害者の雇用問題について考えて行く必要があるのではないかと、いうことを強く感じました。

「県身障者体育大会」雨天中止

去る9月25日、石川県身体障害者体育大会が予定されていましたが、あいにくの前日からの雨で中止となりました。来年の昭和64年、北海道、全国身体障害者スポーツ大会への出場を目指して頑張っていた方も多いと思います。雨で流れてしまって残念ですが、次回昭和65年、福岡大会・昭和66年、石川大会に向けて頑張りましょう！！。

第2回風船バレーボール大会

10月2日に金沢市駅西むつみ体育館において、日本作業療法士協会石川県士会主催の第2回石川県リハビリテーション風船バレーボール大会が行われました。

参加チームは、県内の作業療法士がいる病院、施設等の14チーム、選手は役員を含めて総勢270名の参加であった。それぞれのチームは真紅の優勝旗をめざして競い合いました。試合の結果は下記の通りです。

- ・ 試合成績 優勝 石川整肢学園チーム
準優勝 青山彩光苑Aチーム
3位 金沢赤十字病院チーム

《チョット・お勉強の時間》

リハビリテーションとは

皆さん、リハビリテーションという言葉を知ると、手や足の機能回復訓練を思い出さずにはいられません。しかし、リハビリテーションとは医学的・教育的・職業的・社会的リハビリテーションという分野を含み、障害者・老人・児童等が、全人間的な生活する権利を回復を図るという広い意味をもっています。風船バレーボールは、そういった意味をこめて昨年より県内で大会が行われています。

ちなみに機能回復訓練は、理学・作業療法訓練が主体となっています。

走れ!! ひまわり号 在宅障害者

汽車に乗って旅をしてみたい、そんな障害者の素朴な願いを乗せて今年も金沢～輪島間を10月23日に「'88 ひまわり号」が走りました。このひまわり号の運転も今年で4年目、参加人員も障害者・ボランティア・家族を含めて600人と多くの参加がありました。

社内や目的地では障害を持つ人たちに、汽車の旅を楽しんでもらうためにさまざまな企画や行事を行っています。また、行く先も最初の金沢～敦賀間の運航をはじめ、一昨年の岐阜の高山、昨年は福井県武生菊人形の見学というように各方面に運行しています。

私たち実行委員会としては単に障害者のために汽車を走らせるのではなく、一人でも多くの障害者が列車で旅を気軽にできることを願って走らせています。

また、プラットホームの安全・改札口の改良・駅や構内でのエレベーターの設置・点字時刻表の作成や案内板の掲示などを改善し、障害者や老人、子供たちが安心して利用できる乗り物になることを目指してひまわり号の運動を行っています。

今、金沢駅周辺では新幹線の乗り入れなどのさまざまな工事が行われています。昭和66年には全国身体障害者スポーツ大会が開かれます。全国から石川県を訪れる障害を持つ仲間

が安心して利用できる金沢駅にするために、これからもひまわり号の活動を通して「便利な駅・利用しやすい駅」を考えて行きたいと思います。

アートフラワー展を終えて 在宅障害者

3年に一度のアートフラワー展もようやく終え、ほっと一息ついています。当日まで2週間はお家を忘れたカナリアのごとく皆さん一生懸命でした。

10月7日～9日の3日間で、羽咋市公民館に400人を越える来場者、花の中でご覧いただいた方々全員にお茶（コーヒor抹茶）とお菓子を召し上がっていただき、ちょっぴり優雅な気分を味わっていただきました。（しかし、裏ではてんやわんやでした。）

私にとってこの展覧会は新しい出会いの場でありました。とってもうれしく、楽しいことです。

今、一つのことを終えた満足感、心地よい疲れ……。今度は心機一転、音楽祭へ向けての練習。あーあこんなことでいいのかな。

これからの催しもの

婦人障害者の社会参加促進のつどい

テーマ：よりよいコミュニケーションの場をもとめて

日 時：昭和63年11月20日（日）午後1時～5時

場 所：金沢市文化ホール大集会室

主 催：金沢市 金沢市身体障害者団体連合会

内 容：・記念講演 すべての人にことばを 勇気と希望をもって前進しよう

講 師：寿岳章子氏（前京都府立大学文学部教授）・体験発表・意見交換

映 画：第23回全国身体障害者スポーツ大会（沖縄大会）

・イザというとき・知っているとな役に立つ 心身障害者で“むし歯でお困りの方へ”

歯が痛くなっても、口を充分に開けてもらえない、体の緊張が強くて長時間静止をしておれないという理由で、一般の歯医者さんで治療が受けられずにお困りの方はいませんか。そういう方々のために、石川県歯科医師会館内に身障者専用の歯科治療台と諸設備の完備と診療スタッフによって、心身障害者（児）の歯科治療を行っています。

☆歯科相談・診療のお問い合わせは

〒920 金沢市神宮寺3丁目20-5

石川県歯科医師会館内

石川県歯科医師会口腔センター

☎ (0762) 51-1010 (代表)

☆相談・診療日時

毎週木曜日を原則としております。午後1時30分～午後4時

あなたはどう考えますか？

50万人目のプレゼント

みなさん、この事件は新聞等でご承知と思います。私たち編集局では、どのようにすればこのような事件をなくし、障害者と健常者が共に生きる社会作りのが実現されるのかを願って、この記事に掲載しました。

なお、この記事はNHKラジオ第2放送『心身障害者とともに』8月28日（日）に放送されたものを参考にしております。皆さんの率直なご意見をお待ちしております。

・事件の概要

高岡市の市営室内プールで、オープン50万人目の入場者に記念品を贈ろうとなった。そこで、50万人目にせまった8月12日に職員がカウンターを持って人数を数え始めた。所長が記念品のバスタオルや水中めがね、などを持って待っていたところへ、50万人目の入場者として県立養護学校の知恵遅れの少年が入ってきた。

ところが、この少年を知っている職員の一人が「この子は知恵遅れで、いつもプールで走り回ったりして注意してもなかなかきかない」と所長に報告した。それを聞いた所長が「そういう子なら50万人目の意味が分からないだろう」と思って、この少年を外して次ぎに入場してきた健常児の少年に記念品を贈った。この事情を知った高岡市では、翌日教育委員会の幹部とプールの所長がこの少年の自宅に行き、少年と両親に陳謝をし改めて50万人目の記念品を贈った。

なお、9月25日（日）の放送では、この所長さんは全国各地から高岡市への反響が強くて、解雇処分になったという続報がありました。

・ラジオコメンターの意見

私の率直な意見は未だに、そういうことを行う公務員がいるのかと驚きました。ここでの問題点は地元の新聞に市教育委員会の幹部は「差別する意図は全くなかった」と言っている。

しかし、これが差別でなかったら差別っていったいなんだろう、と思う。この知恵遅れ少年はいつもこのプールを利用していたそうです。プールの職員は少年と顔なじみだったと思う。問題はいつもプールの職員がこの少年をどのように扱っていたかと思うと胸が痛みます。

われら仲間たち

石川県肢体不自由児（者）協会青年部

私たちの石川県肢体不自由児(者)協会青年部は、昭和52年に在宅障害者を対象にして発足しました。

発足当時は、会員2名だけでしたが、現在は男19名女13名の計32名となりました。会の目的は障害者が集まって、語り合いや交流などを行うために青年部を作りました。現在の催し物は、春はレクリエーション・夏はビヤガーデン・冬はクリスマス大会などを行っています。

昨年は設立10周年を迎えました。記念としてテレホンカードを作り、会員やお世話になった人々に配布しました。これからもどうぞ青年部を見守ってください。

わたぼうし広場

今回より、従来の自由投稿コーナー・文芸コーナーという枠を取り外して、皆さんに楽しんでもらえるように工夫をしてみました。日常生活の一コマや文芸、夢など皆さんが気楽に使っていただければ幸いです。

僕のユメ 障害者支援施設・利用者

今、僕が心の中に考えていることは、これから先年金をためて、小さな自分の店を持つことです。難しいことはわかっていますが、だから一生懸命やってみたいのです。しかし、一人では無理だから、だれかと一緒にやってみたい。そのためには、ここ（南陽園）で仕事を思いっきりやって、みんなにいろいろなことを教えてもらったりしたいのです。

やはり、夢を持つことはよいことだと思います。しかし、夢を実現することは大変な努力をしなければならぬと思いました。口先ばかりではいけない、と今気づきました。
＝ガンバレ・Sクン＝

ワンちゃん・ニャンちゃん大集合

～ワンちゃんの巻～

S氏家

- ・性 別 オス
- ・名 前 コボ
- ・種 類 雑種
- ・我が家へ来て 4ヶ月
- ・毛 色 体は白、耳は茶色
- ・性 格 クセ

人の靴をかみちぎる。散歩に行くと先に人間様を引っ張って行く。くさりを離してもきちんと自分の小屋に帰ってくる。とても寝ることが好きである。猫もいるが、猫はコボにこわがって逃げて行く。芸は「お座りとお手」である。もっとたくさんの芸を覚えて、利口になってほしいと思うがむづかしい・・・。なんてアホな犬でしょうか。こんな犬ですが、私たち家族にとっては、家族の一員として大切なコボです。そんなコボが大好きです。

★係からのお願い

あなたの家にいる愉快的なワンちゃん・ニャンちゃんを庫のコーナーで紹介してください。写真は印刷の関係上無理ですので、簡単な似顔絵があれば大歓迎！

～俳句・川柳～

句集 地域住民・在宅障害者

- ・春の虹画集のつつみ抱きにくる
- ・地球儀をゆっくり廻す若葉光
- ・川沿ひに試歩ふえみたる彼岸過
- ・風船をふくらませみて顔かくす
- ・木の葉雨きてしはなくを胸そらす
- ・車椅子押されて居りし蝉時雨
- ・嘆きことひとつ減りたり蠅生まる
- ・欄干のらくがきの下葉月潮
- ・自転車の紐を落としてカンナの根

私の川柳手帳より 地域住民・在宅障害者

- ・うまくすれば女が強くみえ
- ・看護婦と患者にロマンスあるうわさ
- ・お茶お花いわば女の装身具
- ・浮気した心境に見すかされ

～詩～

梅 雨 地域住民・在宅障害者

もう梅雨に入ったのか
朝から小雨が煙っている
いつの時代でも
私の中に降り続いていた
決して豪雨ではないが
決して激しくはないが
いつもしっとりと濡れていた
小さな悲しみも長く続くと
大きな悲しみになるものだ
私は待っていた
待つことがすべてであった
その姿勢が生活の中心であった
何も過去の感傷に浸るつもりはない
自分を考えるとどうしても
想ってしまう
母と別れた悲しみも
今は静かに見つめられる
橋の上で長い間父を待っていたのも
冷静に考えられる
申し掛かる苦しみは
それだけのものに過ぎないか
それを通して別の意味があるか
あの時の無情の雨は
乗り越えられたわけではないが
傷口がふさがったわけでもないが
過ぎた過去のことと考えられる
今の幸せの中で
梅雨のシーズンには
チクチク痛みの跡が残っている

本の紹介

100万回生きたねこ

佐野洋子作・絵 発行所：講談社 定価：980円

このとらねこ一代記が、何を風刺しているかなどと考えなくても、すごいバイタリティーを生きかえているんだ。話をおもしろいと思ってみればよいと思う。上級から大人まで聞いてみて、それぞれに受けとめられる不思議なストーリーである。

飼い主へのつながりが無視され、前半と後半が途切れているようで、みていくとつながってくる不思議な構成である。 ー日本経済新聞「こどもの本」書評よりー

・訂正とお詫び

12号で紹介しました「福祉の思想」の定価650円は旧価格であり、改定価格は750円でした。ここに訂正とお詫びを申し上げます。

・投稿原稿についてお願い

編集局より、いろいろな方々に原稿依頼を行っておりますが、紙面の関係上掲載が次号になることがございますので、ご了承下さい。

編集後記

今回より皆さんに楽しんでいただけるように工夫をしてみました。いかがでしたか。

今後も皆さんに、楽しんでいただける新聞に行きたいと思えます。その一つの試みとして皆さんの企画・アイデアを募集いたします。楽しい企画・アイデアをお待ちしております。

我々をテレビにくぎづけにさせたソウル・オリンピック・障害者のオリンピックであるパラリンピックも無事終わり、秋の深まりを感じさせるこのごろです。

しかし、今年は冬の訪れが早いのか、急にきた寒さで、僕も風邪で1週間も悩まされました。本当にに苦しい思いをしました。皆さん、外から帰ったらうがいをしましょう。これからの寒さに負けず頑張りましょう。(Z.O)

時間よとまれ、この頃よく思います。それは四季の移り変わりがやけに早く感じられるから……。皆さんはどうですか。

春は花見、夏は花火、秋は食べ物、冬は車の雪下ろし、それが僕の季節感です。(T.K)